



あけましておめでとーございませう!

にいつホサト
ステーション

2022. 1
vol. 850



毎月1回
発行

発行所 / 新潟商工会議所
編集発行人 / 渡辺 稔

〒956-0864
新潟県新潟市秋葉区新津本町3丁目1番7号
TEL 0250(22)0121 FAX 0250(25)2332
Email: n-cci@fsinet.or.jp
URL http://www.niitsu.or.jp/

今月号の紙面

- ・役員・議員・振興委員
- ・紙上名刺交換
- ・各種団体
- ・年末調整個別相談会

静謐の邁進 (第4回「SLばんえつ物語号」フォトコンテスト優秀賞 安藤 裕一)



新年のご挨拶

新潟商工会議所会頭

前田 正実

明けましておめでとーございませう。
令和四年の新春を迎え、謹んで皆様のご多幸とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年は一昨年に引き続き「新型コロナウイルス感染症」に翻弄された一年でありました。1日の感染者数が最高値を更新し、日本各地で緊急事態が宣言されるなど生活様式も大きく変えざるを得ない大変な一年でありました。

ワクチン接種も当初は混乱する場面もありましたが、国・県・市の頑張りもあり、職域接種や大規模会場での接種なども進んだ結果、秋には感染者も激減し、新潟市でも感染者数がゼロの日もあるなど、終息に向かっていくような状況ではあります。ワクチン効果の低下、ブレイクスルー感染の恐れ、第6波の到来の懸念など、今後も安全・安心の確保を最優先しながら日常生活を送らなければならぬと考えています。

この感染下において医療関係者の皆様には自分の健康も顧みず、ご尽力いただいたことに対しこの紙面をお借りして改めて感謝を申し上げます。この新型コロナウイルス感染症の影響は、飲食店をはじめとする会員事業者でも大きく煽りを受け、売り上げが大きく減少して、撤退を決めた事業者も当会議所管内でも何件か出ております。

この対応策として、国は小規模事業者持続化補助金、事業再構築補助金、県は新事業チャレンジ補助金制度を設けるなど、事業所の支援のための経済対策を行っています。当会議所の会員も積極的に申請をさせて頂き、20件以上の事業者が採択を受けています。当会議所では開所70周年を迎えたことから、コロナ対策の一環として会員に限定した「経営サポート支援事業」を実施し60件以上の申請を頂き採択しております。

さらに地元飲食店の支援として「テイクアウトどつとこむ」事業では、春秋合わせて3千人以上の応募を頂き、「鉄ぶら抽選会」事業では3千5百人以上の方から参加いただきました。参加いただいた皆様に心から感謝いたします。

また、商工会議所の役割はまちづくりを進めることも大きなミッションとなっており、8月には「にいつまちづくり会議」を設立し、まちなか再生定住促進、交流人口拡大の3分科会に分かれて意見交換を行っています。分科会から多くの提言が上がりつつあることを期待しています。

市は令和5年から新しい総合計画を策定することとしていますが、これに連動して区も「区ビジョンまちづくり計画」を策定する予定となっております。まちづくり会議ではこの計画に要望を反映していただくため、12月に開催された区自治協議会で、会長に要望書を提出いたしました。

まちづくり会議は10年後、20年後の「にいつ」を牽引して行く若手の皆様を中心となってまとめた意見であり、区も前向きに受け止めていただけることを望んでいます。

そのほか、国が進める脱炭素社会を構築するため取り組みも会議所として推進するため、「秋葉区みらい会議」を8月に設立しました。

その中で脱炭素社会を形成する取り組みなどを、国や市をはじめ新潟薬科大学、地元病院などと意見交換をし、昨年度末までに数回にわたり開催して方向性を決定し、同じく自治協議会に対して要望を行いました。

さらに、県内の16商工会議所が合同で、北陸地方整備局や花角知事に対して要望書を提出し、意見交換を行ったほか、市内の3商工会議所が一緒になり中原市長に対して要望書を提出し意見交換を行いました。当会議所からは、まちなか再生や定住促進、交流人口拡大の必要性についてお話をさせて頂きました。

また、駅前開発なども今後進んでいくと聞いておりますので、開発事業者に対しても随時、「にいつの「まちづくり」になるような開発をしていただくよう要望しています。

さて、私は会頭に就任して3年目を迎えます。私は会頭に就任した際、会員の皆様には「まちづくり」に積極的に取り組むことを約束させていただきました。今年度は、今年度は会員の皆様からご理解頂きながら、「にいつのまちづくり」に精一杯取り組み、まちなかに賑わいが戻り、誰もが住みたくなる、そして多くの皆様が新潟を訪れたいようなまちづくりを、国・県・市と連携を図りながら行っていきたく思います。

そして私がやらなければならないもう一つの取り組みは会員拡大であります。会員が増加することは会議所の総力が上がります。また地元で働く場を確保することは、定住人口の増加に繋がります。

企業を誘致し、会員を拡大することは大きなテーマではありますが、積極的にチャレンジしていきたいと思っておりますので、会員の皆様から多大なご支援をいただくとともに、秋葉区民の皆様からもご支援・ご協力をいただければ幸いです。

昨年放映されたNHKの大河ドラマも、東京商工会議所の初代会頭であった渋沢栄一さんが主人公でありましたので、このドラマを楽しみにしていた一人でありました。改めて商工会議所の重要性を認識したところであります。

終わりに、会員の皆様方、地域の皆様方のご隆盛とご多幸を祈念し新年のご挨拶といたします。今年もよろしくお願いたします。